



1. テーマ

日本では育休産休の制度が整備されていても取りづらい雰囲気・風潮があり、妊娠後・出産後に社会復帰できない不安から少子高齢化が進んでいる。また貧困率が15.7%とおおよそ7人に1人の割合で貧困状態にある。(2016年)つまり家計を支える人が男性のみでは苦しい家計が多くあるだろう。パートやアルバイトとして育児をしながら日中に働く女性も多くいる。日本では家事や育児が女性の仕事という固定概念が存在し、いまだに薄れていない面があるため、正社員としては働きにくい。もちろん子供の成長を見守るという面も大きい。しかし主婦という観念が薄れない限り、日本での女性の正社員としての社会復帰の定着は難しいだろう。

また企業の視点から見ても、男女両方からの広い視点を持つことが必要だと理解しているが、女性の管理職や役員登用実績は依然低い。これは結婚による離職や産休や育休で現場を離れることを想定しているからである。このような現状・慣習から、日本には大きな働き方改革が必要だと考えられる。今回はこのような日本全体の課題に対して企業の取り組みを調べ、解決に向けて貢献できる企業ポートフォリオを作成した。

2. スクリーニング

今回の研究では3回のスクリーニングを行った。スクリーニングを行うにあたり以下の前提を用いた。ジェンダー平等のメリットとして女性の経済的自立、意思決定の場合における男女平等、女性能力の向上などがある。一方、男性に対する過度期待という問題の緩和もできる。その結果、自由で安定な家庭メンバー関係が作られ、国の経済力の向上ができ、社会が国民の望む方向へ発展し、皆が幸せになると考える。この考えの元スクリーニングを行った。

第一スクリーニングでは、家事代行・ホームヘルパー・中食関係・保育など女性が家庭に縛られず働きやすくなる環境をつくるための業種に注目し、102社を選定した。

第二スクリーニングでは、ROE・自己資本比率・PERの三つを点数化し、合計得点が高いものから日本企業18社、アジア企業7社の合計25社までで選定した。(得点基準は下記参照)

(得点基準)

得点 \ 基準	ROE	自己資本比率	PER
0点	マイナスの値の場合	なし	なし
1点	1~3%	0~20%	30倍以上
2点	4~7%	20~40%	20~30倍
3点	8~10%	40~60%	15~20倍
4点	11~13%	60~80%	10~15倍
5点	14%以上	80%以上	1~10倍

※平均を3点で設定し、合計点数が9点まで(平均3点×3基準)になるものを残した。

第三スクリーニングでは経営方針・企業内容と投資テーマとの適合性などを選考した。結果、投資を行う企業を102社から16社まで絞った。

まとめ

我々はこの研究を通して、今まで学んだ専門知識を活かすことができた。また日本とアジアのジェンダー問題への理解にもつながった。研究中、グループの事でコミュニケーションと研究の重要性も認識した。初めての研究として、すごく有意義な経験であった。

3. 投資銘柄の紹介

右の16社が今回の投資銘柄である。並び順は第三スクリーニングでの得点が高い順である。

中でも注目すべきなのは「千趣会」「日本ケアサプライ」「カルビー」の3社
①千趣会は女性のための事業を進める企業である。よって従業員に対しても育児と仕事の両立について説明した独自のマニュアルを作成するなどの取り組み

を行っている。経営理念や事業内容のテーマとの適合性で得点が高かった。②日本ケアサプライは施設への介護用品レンタルだけでなく、各家庭用のレンタルも行っている。こちらも経営理念や事業内容のテーマとの適合性で得点が高かった。③カルビーではワークライフバランス面での得点が高く、有給取得のしやすさや月平均残業時間の少なさ、男性の育休取得実績という点で差をつけた。

1	千趣会
2	日本ケアサプライ
3	カルビー
4	SCSK
5	マルハニチロ
6	セブン&アイホールディングス
7	ライドオンエクスプレスホールディングス
8	ハークスレイ
9	シルバーライフ
10	三菱商事
11	ロングライフホールディング
12	任天堂
13	ディスコ
14	蘇寧雲商
15	カカオ
16	阿里巴巴集团(アリババ)

4. 投資家へのアピール

Yahooファイナンスとinvestingを使い、投資銘柄全16社の株式三年間の月次データで分析し、以下の数値を求めた。

	ポートフォリオ	日経平均	TOPIX
シャープレシオ	0.04909	0.09275	-0.00351
ソルティノレシオ	0.07798	0.13753	-0.00508
予測リターン(月)	0.22%	0.50%	-1.70%
予測リスク	4.51%	5.34%	4.82%

予測リターンは株の予想収益であり、予測リスクは株の予想リスクである。シャープレシオは、1単位のリスクに対して、どのくらいのリターンがあることを表し、ソルティノレシオは計算時に損失が出る場合だけを表す。つまり、ソルティノレシオは株が下がる場合のリスクとリターンの関係をあらわす指標である。投資対象を比較する際、他の指標が同じ場合にはソルティノレシオとシャープレシオが高い方がよいということがわかる。

ベータ値とは、個別銘柄のこれまでのデータを使い、市場全体の動きに対する機微をあらわす指標である。ポートフォリオのベータ値から、市場全体の10%が変動すると、ポートフォリオが約5.7%変動することがわかる。

求めた指標により、総合的に我々のポートフォリオの収益は市場平均より低い、リスクも低い。そして、株式市場全体の動きより安定的で、ローリスクなポートフォリオであると言える。今のコロナで、株式市場の動きが激しい環境の中、本研究成果はいい選択肢だと考える。

